

令和3年度学校自己評価システムシート (県立越ヶ谷高等学校定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身につけ、社会で主体的かつ前向きに生きることのできる人材の育成
--------	--------------------------------------

重点目標	1 生徒の基礎学力の充実に向けて、授業の改善を図る。 2 生徒の学校生活の充実に向けて、効果的な特別活動や教育相談等を行う。 3 定時制高校の教育活動の理解を深めるため、情報発信を行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○ 多様な学習歴、年齢層の生徒が在籍しているため、個のレベルでの学習指導を充実させる必要がある。また、成績不良による転退学者を減少させることも課題である。 さらに、感染防止対策を徹底しながら教育活動を進め、臨時休業等に備えて学習保障を行うためのICTの活用に必要な備えがある。	○ 授業公開、授業アンケートを活用し、授業改善を行う。	① 年次研修該当者や希望者を対象に研究授業・研究協議を毎学期行う。 ② 7月と12月に授業評価アンケートを実施する。	① 研究授業・研究協議が毎学期実施できたか。 ② 授業評価アンケートで生徒の満足度と理解度は向上したか。			
		○ 課題を抱えた生徒、日本語を母語としない生徒への個別指導を充実させる。	① 多文化共生推進員や学習サポーターを活用して、定期考査前後に個別の学習支援を行う(通年)。 ② 英語、数学の授業で習熟度別授業を継続し、個へのアプローチを強める。	① 学期末において、成績優良者が増加し、欠点保有者が減少したか。 ② 英語、数学の授業内容が理解できるようになった生徒が植えたか。			
2	○ 進路指導と連携した特別活動を効果的に実施し、個々の生徒に付加価値を付け、進路未定者を減少させることが課題である。 また、新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者に対する偏見やいじめを防止するとともに、生徒の心のケアに努めるために、さらに、出席不良による転退学者を減少させるために、教育相談を中心とする支援の継続が必要である。	○ 生徒の学校生活を充実させるための効果的な特別活動が展開する。	① 学校行事等への生徒の参加率を増やすために、学校行事を精査し、丁寧に実施する。 ② 外部機関を積極的に活用し、生徒の進路指導を組織的に行う。	① 生徒の学校行事への参加率は向上したか。 ② 生徒の進路決定率100%を達成したか。			
		○ 組織として、生徒の実態に応じた教育相談と授業支援を行う。	① 特別支援教育コーディネーターを複数配置した校内支援委員会を中心に、課題を抱えた生徒を積極的に支援する。 ② 教育相談と授業支援を充実させるために、スクールカウンセラーや巡回支援員を積極的に活用する。	① 組織的な取組により、生徒の学校生活は安定・充実したか。 ② スクールカウンセラー及び巡回支援員の積極的活用により、不登校生徒、転退学者が減少したか。			
3	○ 本校定時制課程が地域社会において一定の役割を果たしているとの評価をいただいている。 今後も、本校の教育活動を様々な方法で情報発信し、地域の理解を深める必要がある。	○ 地域や中学生に分かりやすい内容で本校の教育活動を発信する。	① 本校定時制における学校生活をホームページを活用して地域と中学生に配信する(通年)。 ② 地域や中学生を対象に学校公開を年間3回、学校説明会を年間3回開催する。	① ホームページの更新回数は月に1回以上か。 ② 学校行事等の来校者数、志願者数は増加したか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	